

答 辞

桜の蕾も色付き始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような心温まる式典を挙げてくださり、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様からいただいた祝福と励ましのお言葉を胸に、新しく始まる人生の第一歩を、希望に満ち溢れた気持ちとともに踏み出そうと決意いたしました。

2年前の春、私たちは新たな学生生活に、不安と期待が入り交じる気持ちを抱きながら、入学式を迎えました。入学当初は、高校までの環境とは異なり、目の前の景色全てが新鮮に感じられ、胸が高鳴る中にも戸惑いを隠せませんでした。しかし、学生1人ひとりの個性に寄り添った、温かく熱心なご指導をしてくださる先生方や、同じ夢に向かい、励まし合う仲間との出会いにより、充実した日々を送ることができました。

私にとって、この女子短期大学部で過ごした2年間は、保育者という夢を叶えるためのかけがえのない学びを得ると同時に、人間性を磨いたひと時となりました。日々の講義では、保育の専門的な知識や実践的な技術を身に付けることができるよう、先生のお言葉を心に留めていました。

学外オリエンテーション、グループワークキャンプ、作新祭、スポーツ大会といった数多くの行事、また実習やサークル活動といった様々な経験をするのができ、どれも心に色濃く残る思い出です。

先生方とは、講義以外でも楽しくお話し、時には悩みを聞いていただくこともありました。今年度は、新型コロナウイルスにより講義の実施形態が変化した中、私たち学生のために試行錯誤して学びの機会を提供して下さった先生方には、心から感謝しております。

さらに、2年間の学生生活では、たくさんの大切な仲間に出会うことができました。1年次の様々な行事では、どのクラスも全力で取り組み、更に仲が深まったことと思います。しかし、2年次では、満足した行事が行えず、大切な仲間との時間も限られた1年となってしまいました。そのような状況の中でも、ここまで乗り越えてこられたのは、他ならない友人の存在があったからです。嬉しい時や辛い時には、自分のことのように喜んだり悩んだりして気持ちを共有してくれた友人に心から感謝しています。本当にありがとう。会えることが当たり前ではないことを知った私たちだからこそ、より一層人との繋がりを大切にすることができたのだと思います。そんな皆さんと、今日で会えなくなると思うと寂しい気持ちでいっぱいです。

そして、卒業を迎えたこの日まで、私たちを支え、見守り続けてくれた家族に心から感謝しています。今の私たちがあるのは、家族が1番近くで夢を応援し、味方になって励ましてくれたからです。今までたくさん迷惑を掛けましたが、これからは社会人としての自覚と責任を持ち、立派に生きていこうと思います。今まで本当にありがとうございました。

2年間の学生生活を振り返り、この日を迎えるまで、自分1人の力だけではなく、多くの方々に支えていただきました。これからは私たちにとって本当のスタートです。辛く挫けそうになることもあると思いますが、今まで支えて下さった方々への感謝の気持ちを忘れずに、そして、学生生活の日々を自信に変え、自分らしく歩んでいこうと思います。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからの益々のご発展と、学長先生を始め、教職員の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和三年三月二十一日 作新学院大学女子短期大学部
卒業生代表 足立 麗音

